

大杉谷

風のたより

平成 25 年 5 月 (第 49 号)



==大きく育て大杉谷自然薯！==



やったる会主催の開墾ボランティアの定植作業に多くの参加を頂き、4月27日～28日に実施いたしました。

昨年はよい自然薯が収穫できたので、今年にかける意気込みもひとしお。県内外からの温かい応援もあり無事作業を終えました！

孫さんキャンプ 参加者募集のお知らせ

今年で4年目を迎える「孫さんキャンプ」は大杉谷にゆかりのある子供たちを対象に7月27～28日で実施いたします。

この「孫さんキャンプ」は、大杉谷の暮らしや遊びを体験することで大杉谷の良さを肌で感じてもらうキャンプです。

子供の頃の体験というものは、年を重ねる度に懐かしく思えるものです。

ぜひ、お孫さんや親戚・知人・友人の子供さんのご参加を呼びかけてください。

日時 平成25年7月27日（土）～28日（日）

申込先 大杉谷自然学校（78-8888）



やまびこ対話のお知らせ

町長と直接会って話しませんか。行政への率直なご意見をお聞かせください。

日時：5月24日（金）午前9時～

場所：大杉谷出張所

- ・30分刻みで予約受付いたします。（予約優先）
- ・日時に変更があった場合は防災行政無線ケーブルテレビ文字放送でお知らせします。

予約先：大杉谷出張所 78-3001 企画課 82-3782



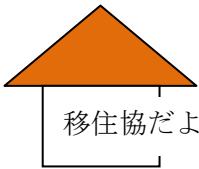
人口の動き（前月比）

住基人口	世帯数
275 (+1)	151 (±0)

男	女
114 (+1)	161 (±0)

あとがき
土砂の埋め立て用地として出張所前の杉林を伐採しました。
そのため出張所から古ケ丸を一望できるようになり、四季で変化する風景を毎日楽しむことができます。
また、きれいな川面も顔を出したので昔のような川さつきが奇麗に咲けば絶景ポイントになるのですが・・・。
サツパリした出張所ですが、今度は「強風」との戦いかも知れません。特に冬場は一層冷えるのでは今から心配です。
改めて、川の見える環境って良いな〜と感じました。

〔野呂〕



移住希望者向け民宿が開業予定

大杉谷移住促進協議会は地区の過疎化を緩和し、地域の方々が安心して生活が続けられるよう、移住者を誘致する活動をしています。

昨年までは、移住先を探す方がせつかく来られても、長期滞在しながら大杉谷を知る拠点の宿が無かったため、すぐ去ってしまい、大変残念でした。

そこで、昨年からコツコツとリフォーム塾などで改修してきた砂子の宮川さん宅。近々田舎暮らし体験用の素泊まり宿として開業します。

5月に県農政課、消防、保健所の検査を終え、順調にいけば6月頃にく農林漁業体験民宿>として営業許可が出る見込みです。

もし「将来田舎暮らしをしたい」「でも宿泊先どうしよう」という方に出会ったら「大杉谷を見てみたら？ゆっくり体験出来る宿もあるよ」とご紹介下さい。

出身者の方で「もう家はないけれど、戻って住みたい」という方も歓迎です。よろしくお願い致します。



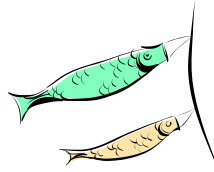
※（予約方法や料金等は、準備が整い次第お知らせします。開業後は、宿泊者にご迷惑をおかけしないように注意します。何か気になる点が有りましたらご指導お願い致します。）

ホームページ : [http:// osugijyu.com](http://osugijyu.com)

ブログ「ふるさと大杉谷」: <http://ijyuosugidani.blog.fc2.com>



集落支援員あらいの諸行無常な日々



新緑の美しい季節となりました。

我が家の 5 人娘が大杉谷に暮らし始めて 1 カ月がたちました。当初は親子共々慣れない生活に不安いっぱいでしたが、地域の皆様に親切にして頂くことで、少しずつ子供たちの心もほぐれ、元気に小学校と保育園に通っております。



休日に家族でやったる会の作業に参加しました。

大杉谷の集落内を巡回していると見かける年季の入った道具の品々。私は日常的に使われていた日本の古き良き古道具や天然素材の物が大好きです。ホームセンターや 100 円ショップに行けば、安くて便利な色とりどりのプラスチック製品を新品で購入できますが、使い捨てにされることを想定して大量生産された物は、どこか無機質で愛着がわきません。海外に行けば、まだまだ生活用品に困って近所で貸し借りをしている国もあるというのに、日本では物が溢れまだまだ使えるものをやむを得ず処分せざるを得ないことというのは心苦しく思い、できれば中古や手作りの品を使いたいと思っています。



初めて見掛けて感動したかごの移動販売

かつての道具類は中古でも丈夫で作りもシンプルで修理もし易く、使う人に永く愛用してもらいたいという作り手の情熱とプライドを感じます。近頃は使われずに残された古道具をあえて生活の中に取り入れ暮らす若者が増えつつあります。また、機械化が進み、誰がどのように作ったかわからない物が多い中、今では手に入りづらくなった手作りの品を求める人も増え、日本各地で「作り手」と「使い手」、お互いの顔が見える「手作り市」が開かれています。

昔ながらの暮らしに立ちかえり、生活を通じて子供たちに身の回りの物を愛着を持って大切に使い続けることの素晴らしさを伝えていけたらと思います。